

30年11月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 11月1日～ 30年11月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/11月	12月	31/1月
伐採動向	スギ	28.6	14.3	0.0
	ヒノキ	0.0	10.0	△ 10.0
	カラマツ	12.5	△ 12.5	△ 16.7
	エゾ・トド	0.0	0.0	16.7
出荷・販売動向	スギ	41.7	40.0	40.0
	ヒノキ	12.5	12.5	12.5
	カラマツ	12.5	△ 16.7	△ 25.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	16.7
手持立木在庫動向	スギ	△ 8.3	△ 8.3	△ 16.7
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	カラマツ	0.0	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	0.0	0.0	△ 16.7

・スギの伐採動向は11月、12月は増加から1月は横ばいに。ヒノキは11月の横ばいから12月は増加、1月は減少に。カラマツは11月の増加から12月、1月は減少に。エゾ・トドは11月、12月の横ばいから1月は増加に。

・スギ、ヒノキの出荷・販売動向は3カ月連続増加。カラマツは11月の増加から12月、1月は減少に。エゾ・トドは11月、12月の横ばいから1月は増加に。

・スギの手持立木在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキは11月の減少から12月、1月は横ばいに。カラマツは11月の横ばいから12月、1月は減少に。エゾ・トドは11月、12月は横ばいから1月は減少に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林の素材生産事業でカラマツ間伐を請負っている。伐採動向は通常の変動で横ばいである（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中（北海道）。
- ・スギ（保護伐）を伐出中。11月から来年2月で約3,000m³予定（東北）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施予定だが、伐採動向とも3カ月連続横ばい見通し（中国）。
- ・台風後の被害木処理が終わり、本格的に間伐の伐倒・集材が始まる（九州）。

(出材・販売動向)

- ・国有林の素材生産事業でカラマツ間伐を請負っている。出材動向は通常の変動で横ばいである（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中（北海道）。
- ・出材・販売動向はスギ、ヒノキとも3カ月連続横ばい見通し。韓国へヒノキを輸出。カラマツは伐採実績なし（中国）。
- ・災害で出材減となっていたが、ほぼ通常通りとなった（中国）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木は、10月の国有林の立木公売でトドマツの間伐現場を1年以上の量を落札した。来年1月から手山立木を伐採予定なので、当月の立木在庫動向は横ばいである（北海道）。
- ・請負事業のみ実施中のため在庫の変動はない（北海道）。
- ・間伐の手持ち立木在庫が83haあり、来年の秋まで仕事がある（九州）。